



あけましておめでとうございませす
今年も宜しくお願い致します！

年頭にあたって ～伊藤組合長～

新年あけましておめでとうございませす。

多くの農業関係者が一同に会し「丸子町にも本格的な農産物直売加工センターを」と要望してから今年で4回目の正月を迎えました。

思えばこの間数え切れないほどの会議や視察を多くの皆さんと積み重ねてきました。そしてそんな積み重ねがあったからこそ、私たちは直売加工センター建設の意義を深く確認することが出来ました。

おそらく私たちの中にある共通した思いは、農業が好き、農業を元気にしたい、農業が衰退するような国はおかしい、という強い思いだったような気がします。その強い思いこそが、時に挑戦することに臆病になる私たちを叱咤激励し勇気付けてきました。

「本当に成功するのか？」と幾度となく、何人もの人達に問われてきました。そんな時私たちは、「成功するか、しないかではなく、成功させなければならない」と答えてきました。どんな事業でも、将来の成功や失敗を予測し断言することはできません。ただ分かっていることは、成功への努力なくして成功はありえないということです。

夢が現実となる今年、皆さんと力を合わせて必ずや成功させるため頑張りたいと思います。

本年が、夢が花開くすばらしい年でありますように、そして何よりも会員の皆さんが健康で一年を過ごされますように祈念し新年のあいさつと致します。

野菜の作業

旬	種まき	栽培管理のポイント	
上旬	ハウス育苗型の春レタス (パイハウスと温床線が必要)	ハウス育苗春レタスの栽培 ・育苗培土は市販のものが良い ・コーティング種子を用いる場合は覆土は少なめにすると発芽が揃う ・床温は温床線により18℃を保つ ・不織布により保温を行う ・発芽後は日中20～25℃、夜間は18℃を目安に保温、換気を行う。	育苗培土の準備 育苗培土は量が少ない場合は市販のものが手軽ですが、多い場合は山土や畑の土を用います。 (培土を自分で作る場合の注意事項) ①pH矯正 ②殺菌←培土の消毒
中旬	二十日大根 品種：コメット ハウレンソウ 品種：オーライ・トライ		農作業機の点検 農閑期のこの時期に点検を行い、故障箇所は整備をし、農繁期の使用に備えましょう。
下旬	小松菜		

今年の作付け計画を立てましょう！

いよいよ今年から「農産物直売センター」での販売が始まります。計画的な作付けを行いましょう！

【野菜作付け計画作成のポイント】

1 どんな野菜をどれだけ作るか

栽培に慣れていて自信がある品目（基幹品目）2～3種類を栽培の中心とし、面積を多めに作りましょう。次に（補完品目）として数品目選択しましょう。この他に今年初めて挑戦してみる品目を1～2種類加えてみて下さい。この品目が今年好調だったら来年は栽培面積を増やしましょう。（徐々に栽培品目のバラエティーが増えていきます）

2 できるだけ輪作をしましょう

毎年同じ場所に、同じ野菜を作付けすると、その野菜を侵す病害虫が多くなります。また肥料成分も偏り生育が悪くなることがあります（連作障害）。作物は異なっても同じ仲間「科」の野菜では共通する病害虫が多いので、これらの野菜の連作も避けて下さい。

【主要野菜の科による分類】

科名	主な野菜	科名	主な野菜
ナス科	トマト、ピーマン、ジャガイモ、トウガラシ、パプリカ	せり科	ニンジン、パセリ、セリ、みつば
うり科	スイカ、キュウリ、メロン、かぼちゃ、ヒョウタン、ヘチマ	あぶらな科	ダイコン、カブ、ハクサイ、キャベツ、カリフラワー、クレソン
きく科	レタス、フキ、ゴボウ、シュンギク、チコリー	ゆり科	タマネギ、ネギ、ニラ、アスパラガス、ニンニク、アサツキ
まめ科	サヤエンドウ、エダマメ、ソラマメ、落花生	その他	イチゴ＝バラ科 ホウレンソウ＝アザミ科

（より詳しくは野菜栽培指導会時の資料参照下さい。役場農林課内農業支援センターにあります）

花の作業

キクの管理【育苗管理】

夏秋ギクの6月出荷では、今月下旬頃が「挿し芽」の時期です。芽の伸びが遅く「挿し穂」の確保が難しい母株は、夜温を7～8℃に上げ生育を促して下さい。挿し芽後の発根適温は15～20℃です。充分な保温を行うとともに換気にも留意しましょう。

栽培ほ場の準備

栽培ほ場の準備をしましょう。昨年「立ち枯れ病」など土壌伝染による病害が問題となったほ場で、連作になる場合は「土壌消毒」を行います。薬剤は「バスアミド微粒剤」や「クロロピクリン剤」を用います。（使用方法等：詳しくは普及センター・JAへお問い合わせ下さい）

土壌診断による施肥相談も順次受け付けています。土を農業支援センターへお持ち下さい。

果樹の作業

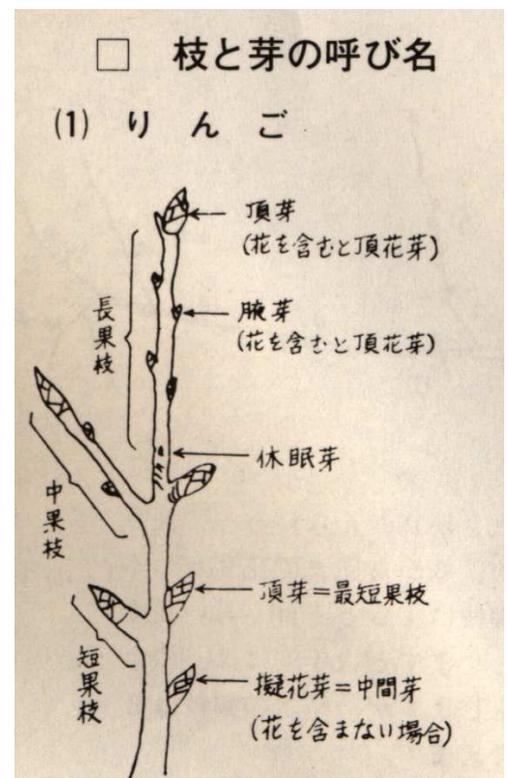
1月はリンゴの「剪定」の時期です！

【剪定の目的】

- ①下枝まで光が良く入る
 - ②脚立が入り作業がしやすい
 - ③薬剤が良く掛かりやすい
 - ④「落ち着いた花芽」のつきやすい
- 上記のような「樹形」を作ることが目的

・花芽について

りんごは前年伸びた新梢の先端に使える花芽が着きます。りんごで良い果実をつくるためには、樹勢を適樹勢に誘導し、生育初期から花芽が着きやすいようにしていくことが大切です。とくに「ふじ」ではこのことが大切になります。



【剪定の手順】

①まず「のこぎり」を使う！

骨格枝を決め、不要な太枝・中枝を枝ごと間引く（一度に太枝を何本も落とすと収量が減り、また樹も暴れるので、計画的な間引きを行う）

「長果枝」・・・11～20cm 以上のもの 「中果枝」・・・6～10cm 程度のもの 「短果枝」・・・5cm 以下のもの ※) 中果枝に着果させると良い。
--

②次に「剪定はさみ」を使う！

・どのように側枝をせん定するか

まず大きな（直径5mmくらい）花芽がどの枝にあるかをよく観察しましょう。比較的、細い枝にある大きなしまった花芽が目標とする良い花芽です。良い花芽は新梢長が落ち着いた、ややたれ気味の細い枝に多いものです。この部分に陽を当てるようにせん定を行います。めざすのは、「一本芯が通って、その周囲に小枝が豊富な側枝」つまり、大きく広がるのではなく、細長い側枝となっていくように小枝を配置していくことがイメージです。

同時に、側枝基部の強すぎる新梢は徒長するだけなので、花芽が残ることを確認して切りましょう。

【以上、技術事項についての作成協力】

上小農業改良普及センター（担当：白石主任 電話 25-7157）